

二〇二四年十二月二十日

本日は令和六年度二学期の終業式だ。シン
ジョーには、とつても楽しみにしていること
があつた。通知表ではない。明日からの休み
でもない。それは、お楽しみ会である。これ
が決まったのは、十一月中であつた。
学級活動でお楽しみ会でやることが話し合
われたときのこと。五十周年を記念して「大
逃走中」をやるうという意見が出た。それが
決まりかけたとき、クラスのある子が「かく

れんぼ」を提案した。もちろん反対意見が出
た。他の子に混ざつてしまつて探しにくい。
授業の邪魔になるのではなにか。見つかった
ら暇になつてしまふ。などなどである。
「できない理由よりも、やる方法を考える」
と担任がいつも言つていたことを思い出した
のか、司会が「近くのひと、できる方法を考
える子が、誰も考えないような意見を出した。
それは、全員が下校した学校でやる、という
ものである。教室は沸いた。拍手も起こつた。
「おもしろい！」と全員が賛成してしまつた。

校長先生が、近づいてくるのが分かった。	大好きなこの学校で	がんばって負けずに勉強しよう	れない。その中の一人が、校歌を歌ってる。	かが教室に入ってきた。見つかった子かもし	それがからしばらく隠れていると、また何人	に息を潜めた。	校長先生の声だった。シンジヨ一は、さら	ので、覚悟して下さい。」	から私も鬼に加わります。本気で見つける	皆さんの隠れ方が上手のようなので、これ	皆さんが見つかりました。思ったよりも	今、六人が見つかりました。思ったよりも	「隠れている皆さん、がんばって下さい。	成功だと思っただけで、放送が入った。	見つかった子たちの声を聞きながら、作戦	やってこない。	シンジヨ一の予想通り、この教室には担任は	を始めましたが、隠れ場所の反省会もしている。	見つかったようだ。約束通り、勉強	しばらくすると、何人か教室に入ってきた	だ。かくれんぼの始まりだ。	覚悟しておいてください。」。担任の明るい声	けに行きます。これから見つけに行きます。	二時十分。放送が入った。「これから見つ
---------------------	-----------	----------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------	---------------------	--------------	---------------------	---------------------	--------------------	---------------------	---------------------	--------------------	---------------------	---------	----------------------	------------------------	------------------	---------------------	---------------	-----------------------	----------------------	---------------------